

令和5年度

自己評価・学校関係者評価

星和台幼稚園

令和6年3月25日

本園の教育目標

◎理想の幼児教育を目指して子どもの成長と共に広がる幸せな世界を作り出します。

○伸びやかで明るい健康な子ども

●子ども一人一人の個性を大切にする

○感受性豊かなやさしい子ども

●絵本を通して豊かな感受性を育てる ●友達との遊びを大切にする

○よく考え工夫する子ども

●物を大切にして自分で考え工夫する子どもを育てる

○根気よく努力する子ども

●自然に触れる経験の場を大切にする ●思いやるやさしい心を育てる

今年度取り組む課題

- 1・感染症に対する学びを深め適切な感染性対策を行いながら充実感あふれる保育を計画実行する。
◎会議内容：新型コロナウイルスが第5類となったが、感染症に対する予防対策は確実なものを目指す。
コロナ禍で行った対策を今後どうしていくか

- 2・火災・震災・防犯に関する避難対策マニュアルの見直し及び構築 全職員把握
◎会議内容：火災に関してのマニュアル作成（訓練計画を含む）
震災に関してのマニュアル作成（訓練計画を含む）
防犯に関してのマニュアル作成（訓練計画を含む）

- 3・未就園児クラスの充実・入園児数に反映させるための考察
◎会議内容：内容・スケジュール計画
広報計画

- 4・子どもの異年齢交流
◎会議内容：日常での考察
行事と重ねての計画

- 5・発達支援を必要としているまた必要と思われる園児への個別の教育支援計画を各クラスの保育に活かす
◎会議内容：個別の教育支援計画を保育に活かすにあたり個別支援の在り方について

Ⅰ・課題：感染症に対する学びを深め適切な感染性対策を行いながら充実感あふれる保育を計画実行する

No.	会議内容	会議決定案	課題取り組み状況
Ⅰ	<p>・新型コロナウイルスが第5類となったが感染症に対する予防対策は確実なものを目指す。コロナ禍で行った対策を今後どうしていくか</p>	<p>・感染防止対策において</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎食事時の感染対策はマナーの範囲 ◎あそび場の共有は感染状況によって変動 ◎検温や欠席に関する約束は継続 ◎参観行事は再開 ・参観人数の設定は状況に合せながら設定 	<p>新型コロナウイルスが第5類になったとはいえ、その病状や感染状況から教職員や保護者の間隔は変わらない。園の方針は今まで通り出来る限りの感染対策を行い新型コロナウイルスだけではなくインフルエンザや溶連菌、肺炎などの感染症感染媒体にならないように努める方針を打ち出した。</p> <p>本日より新型コロナウイルスは5類感染症となります。現在の『法律に基づき行政が様々な要請・関与をしていく仕組み』から『個人の選択を尊重し国民の皆様の自主的な取り組みをベースとしたもの』に変更されます。マスクの着用の取り扱いと同様主体的な選択を尊重し個人や事業者の判断に委ねる事を基本とする。政府として一律に求めることはなくなり、個人や事業者は自主的な感染対策に取り組む。政府は、個人や事業者の判断に資するような情報の提供を行う。としています。保育内においては季節も夏に向かい高温域に入りますので熱中症対策を重視していきます。保護者参加の各行事でのマスク着用に関してはその行事の参加率や行事の特性に応じて園として判断しお知らせしていきます。妊産婦・乳幼児・高齢者の集合体となりやすい幼稚園の特性に応じて検討・決定していきますのでご理解・ご協力をお願い致します。保護者の送迎に関しましてマスクの着用は個人の判断に委ねます。</p> <p style="text-align: right;">【6月の園だよりより抜粋】</p>
<p>反省と成果および今後の課題</p> <p>コロナ禍前から本園は感染症に対する取り組みは独自に園医と相談しながら行ってきた。その為、コロナ禍の感染対策に関しても教職員のアイデアを生かして園内の感染拡大を最小限に抑えてきた。特に行事において感染者が翌日判明したとしても周囲のその感染を広げずに収めたことは大きな自信にもなった。今後とも世の中の状況をみながら園独自の感染拡大予防対策を進めていく。</p>			

2・火災・震災・防犯に関する避難対策マニュアルの見直し及び構築 全職員把握

No.	会議内容	会議決定案	課題取り組み状況
2	火災に関するマニュアル作成 (訓練計画を含む) 震災に関するマニュアル作成 (訓練計画を含む) 防犯に関するマニュアル作成 (訓練計画を含む)	火災に関して ・避難訓練計画案 避難経路の確認見直し 震災に関して ・避難訓練計画案 避難経路の確認見直し 防犯に関して ・訓練計画案 『いかのおすし』指導 園に不審者が入ったら案	火災に関して ・避難訓練計画案をもとに担当など把握。 ・職員間で避難経路・手順・危険を共通理解 ・避難訓練を消防隊と実施 避難訓練及び態度共に問題なしとの事 ・一番大事な事は在籍人数の把握と位置づける 毎日主任クラスの前に出欠チェック表提出している ↓ 主任クラス前に提出 避難時主任が持って出る 同時にバスの降ろし忘れに対する☆4 check☆
反省と成果および課題 火災や震災の避難計画案および避難訓練計画案は作成し訓練を行った。 訓練はスムーズに進行し避難イメージが出来た。地震体験車両は地震の少ない北九州に住む子ども達にとって大切な体験となった。子ども達の感想は本当の時もふざけてはいけないと話していた。この経験は先の被災地支援の募金活動への理解へ繋がった。 防犯に関しては園外での子ども達を犯罪者から守る取り組みは毎学期末長期休みにはいる前に『い・か・の・お・す・し』をベースに教育した。しかし園内に犯罪者等が侵入した場合の対策はイメージトレーニングの域をはず来年は必ず訓練を行うように課題としたい。			震災に関して ・避難訓練計画案をもとに担当など把握。 ・職員間で避難経路・手順・危険を共通理解 ・一番大事な事は在籍人数の把握と位置づけ ・避難訓練を実施した後、地震体験車を体験 ※保育の中で地震アラートを聞き シェイクアウト体験を行っている。 防犯に関して ・訓練計画はたてられていない。 イメージトレーニングは出来ている。

3・未就園児クラスの充実・入園児数に反映させるための考察

No.	会議内容	会議決定案	課題取り組み状況
3	内容・スケジュールの考察	内容 ・年長組ホストによる受け入れ ・ひよこ組サポート ・四季折々の遊びの提供 スケジュール計画 ・今年度も月曜日に行っていく	園庭開放をベースに行った。 未就園児の参加は少ないように感じた。 行われる日にちの不安定さや天候今年度も時に再燃する感染状況の悪化が原因と思われるがもう一つ広報が出来ていない。全クラスが未就園児クラスを意識して活動し長期休み中は全員で活動できた。継続したい。
<p>反省と成果および課題</p> <p>行われる日にちの不安定さや天候、今年度も時に再燃する感染状況の悪化が原因と思われる。</p> <p>もう一つ広報が出来ていない事が考えられた。星和台幼稚園を検索するときホームページが第一ステップとなる事が多い。</p> <p>未就園児クラスにおいては課題が山積みのように感じられた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホームページの活性化を行いInstagramも常時動かす。 ・保護者にご協力いただく媒体製作を行う。 ・未就園児受け入れクラスを園児通用門すぐの場所にすることで開催日の安定を図る。 ・コロナ前のように製作などの季節の持ち帰り製作を行う。 ・行事への未就園児枠での参加のお誘い ・年間内で開催が滞る時は web などを使って関係を続けるなど職員間にアイデアを求める。 ・所定の受け入れの部屋を設定し雨天対応に力を入れる。帰りたくない幼稚園を目指す。 			

4・子どもの異年齢交流

No.	会議内容	会議決定案	課題取り組み状況
4	日常での考察 行事と重ねての計画	年長組をホストとした交流体制 4月・5月 年少組・ひよこ組に対して身辺整理など園のルーティンサポート 5月・6月 手を繋いで農事センター遠足 9月・10月 あそび場共有 11月～3月 次学年への憧れ	今までコロナ禍にありクラス単位学年単位の活動が主軸であったが4月、年少組・満3歳児クラスのサポートを行った。手本になったり手伝いをするところから始まった。 担任の願い 自分のスタイルのままでいいので自分より幼い友達とかかわってみる事から、自分自身を見つめる。また、思い通りの可愛いだけではない幼い友達に対してどういう気持ちを自身が抱くかを知る。
<p>反省と成果および今後の課題</p> <p>園内の異年齢交流はコロナ禍に出来なかった分職員の願いと計画が豊かで今年は子ども達の育ちの経過を追いながら異年齢交流を行うことが出来た。スタートは年長の育ちを追うことが多い形にはなったが関わり合いながら年長組に憧れ学びながら共鳴し合う学びが出来た。その交流を行事におとしながらより多い課題と育ちを見守ることが出来た。行事の計画を考察していく職員も大きな学びを獲得する1年となった。縦割り保育を主体としない『愛おしく、大切に思いやる』気持ちの自主自立を促すことが出来た。</p> <p>どんな場面においても『小さな子が触ったら危ないね』など片付けの際にままごと品の破損を確かめあう姿を素晴らしい育ちと感じた。手を繋ぎ降園準備や誘導を促す姿や保護者に『泣かんで待ってたよ』と一言添える姿は母親たちが心配して送り出す気持ちをおもんばかった一言であり優しさと思いやりで育ったからこそ気付くことが出来た一言と思った。高齢者の皆さんとの交流は年長児にとって最高学年では園内では味わえない『可愛いね』と言ってもらえ褒めてもらいながら笑顔にする経験で『心が温かくなってきた』と言葉にした。今後も園行事や園生活に自然とある異年齢交流とする。</p>			

5・発達支援を必要としているまた必要と思われる園児への個別の教育支援計画を各クラスの保育に活かす

5	会議内容	会議決定案	課題取り組み状況
5	<p>個別の教育支援計画を保育に活かすにあたり個別支援の在り方について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指導要録や引継ぎから個別の教育支援計画を立てるが立てただけに終わっていないか 	<p>学期末のみならず検討会議 ケース会議を持つ時間が少なく主任＝特別支援コーディネーターとの相談と対策になっている。育ちを促す事や傾向や対策は促すことが出来たが本園の全職員把握および育みの保育を考えた時課題や対応を全体周知していきたい。</p> <p>個別の教育支援計画を活かして職員全体の理解を促しどの場面でも教育を等しく提供できるものとしていくと同時に個人情報保護の観点も見逃さずカバーしていく。</p>	<p>個別の教育支援計画をたてるにあたり研修を受け誰もが同じ理解が出来る言葉をつかって記入する 今回特別支援コーディネーターという学びを得た役割を最大に活かし園内研修やクラス担任への特別支援指導を行った。保護者との個人面談を行う際コーディネーターも入り保護者の願いや育ちの状況を計画に織り込んだ。</p> <p>担任や加配だけではなく各場面にて気持ちに寄り添う教育を意識した。個別の教育支援計画だけでは関わりに差が出てしまい共通理解と配慮を促すためのケース会議をしたいが送迎などの実働人数の影響により実現が少なかった。</p>
<p>反省と成果および今後の課題</p> <p>職員の持ち味を生かしながら一定の関わりにより園生活の流れをわかりやすく『困り感を持つ子ども』が理解できるように私たち教職員はその特性を理解し学びを深める事に力を注がなくてはと考える。子どもを真ん中に保護者、幼稚園、事業所が力を合わせるようにしたい。担任と協力して教育支援計画作成ケースカンファレンス実行の取り組みを必須とする。</p>			

職員評価

評価方法：A（問題なく課題をおこなうことが出来、来年度見直しをしながら引き続き行う）

B（環境的に若干の見直しが必要であるが取り組み自体は問題なく引き続き行う）

C（人為的に見直しが必要である。見直すことで課題に対し良い成果が見込める）

D（大きな問題がある。見直しを迅速に検討する必要がある。もしくは行った。）

学年	職員氏名	No. 1	No. 2	No. 3	No. 4	No. 5	コメント
省略	以下省略	A	D	B	B	B	未就園児クラスも含め異年齢交流を行うことをクラスで話し合いおこなった。お当番になり下級生のお世話に行くことを全員が楽しみにしていた。 大きな震災があったが今までの震災経験がない事から子ども達とのシェイクアウト活動に力を入れ行うことが出来た。その中で地震体験車体験は子ども達にとって大切な経験となった。 犯罪に対するマニュアル作成が急がれると思う。心身を守る教育を保育に入れていく。
		B	B	A	A	A	今まで特定の職員のみで行っていた未就園児クラスに関われたことは次年度の新クラス受け入れの際にも親近感となり良かった
		A	C	A	A	A	年長組が地震体験車に乗っている間地震についてクラスの子どもの説明を促すことをしていなかった。貴重な体験であったが消防車のように視線を集中させたように思う。元旦の能登震災を受けクラス内に震災の話をしに年長が募金を募るお願と共に来てくれきちんと自分たちが理解して話していたのは地震体験車を経験したからだと思った。もう少し行事一つ一つを大事に考えたい。
		B	B	A	A	C	特別支援は今後の学びを深める意欲と課題達成をシステム化できていると思っている。 防犯対策マニュアル作成を必須。 感染拡大対策はマナー内としてレジャーシートの使用を多用しているクラスがあった。なぜだろうと聞けなかった。先生の食事準備の落差を優先しているのかと。使用の頻度・適性を4月に話したが見直し徹底が必要であると考え。
		B	C	C	A	A	未就園児プログラムがやむを得ず中止になる事が多かった やむをえないが継続的な開催が入園児の増加につながると考察する。 クラスの配置換えを提案したい。
		B	C	B	A	A	職員の衛生ラインの共通理解 破損物の修理改善 砂場のネット、トイレの衛生管理など面倒な事も行ってみれば当たり前となり振り返ると今までの不衛生な感覚が理解できる。当たり前に行っているところの見直しと改善を行い一層感染症を流行させない幼稚園としたい。
		B	B	B	B	B	星和台幼稚園の特別支援教育は愛があると思う。でもどう対応していいかわからない時がある。
		A	B	B	A	A	クラスから出ていく子供の追尾をするが寒さの中で抵抗とする子供を制止したくならない出来ない。

学年	職員氏名	No. 1	No. 2	No. 3	No. 4	No. 5	コメント
省略	以下省略	A	A	A	A	A	コロナになった時感染したかもさせたかもの状況にドキドキした。まだ感染したかどうか分からない状況下でしたがすぐに休ませて頂けて良かった。結果陽性で皆に感染させていなくてよかった。
		B	A	B	A	B	担任の先生でないとお話を聞いてくれないお子さんに、どのように対応していいかわからない。
		A	B	B	A	B	

体調不良により2枚未提出

《次年度課題》

◎個別の教育支援計画を保育に活かすためにケース会議や研修を行う。またその会議結果や研修内容を補助教員とも共有する

◎子どもの在籍人数確認の徹底。安全管理の徹底。情報共有。緊急時対応のシステム化

◎園の理念理解 行事などを行うとき教育的意義を考察し全学年をとおして軸とし年齢相応に沿った計画案をたて進めていく。

第3者評価委員 総評

A

No. 1	A	No. 2	A	No. 3	A	No. 4	A	No. 5	A
-------	---	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---

社会的に新型コロナウイルス感染対策がグッと軽微になって新型コロナウイルスは第5類になってきた。コロナ禍の経験を活かしながら感染拡大予防対策を考えていた。発表会ではインフルエンザの影響を受け開催日時を分ける対策をとったとの事。無理をせず子ども達が楽しく参加できたとの事で保護者にとっても嬉しい成長を見ることが出来たと思う。特別支援教育はどの子にとってもメリットのあるものである。星和台幼稚園の温かな雰囲気教育をすべての子ども達に提供できる様園内研修を行い先生自身も迷うことなく保育を充実させることが出来るようにしてほしい。来年度は新人の先生が多くその体制において、子ども達の事故などが無い様、職員間の情報共有を大切にしてほしい。新人の先生が穏やかに学び多く意欲に満ちた保育現場となるよう経験者は自身の知識と経験を惜しみなく提供し未熟な部分を責めることなく各自の性格と読み取らず、改善を考察できるゆとりを与えながら育てて欲しい。その時決して本園を選んでお子様を入園させてくれた保護者の思いを忘れない様に気をつけなければならない。幼稚園がみんなにとって楽しく集う場所になるよう期待しています。いつも前向きに子どもを真ん中に検討し、よりよくと考えているのでそう評価はAにしました。

令和6年 3月 25日

第三者評価委員

第三者評価委員

適正に第3者として評価した。